名古屋ライトハウス
アイのかけはし
第16号 平成26年7月

発行責任者
社会福祉法人　名古屋ライトハウス
理事長　本 間　英 典

〒466-0855
名古屋市昭和区川名本町1-2
TEL 052-757-3522
FAX 052-757-3533

理事長あいさつ

いわゆる「社会福祉法人の内部留保問題」に端を発した議論は、われわれ社会福祉法人に対して、その使命、存在意義を改めて問いかけています。今こそ原点に回帰するときなのではないでしょうか。法律・制度に則り、良質な福祉サービスを提供することはもちろんのこと、地域社会にとって私たちがなすべきこと、営利目的の組織にはできないことにこそ、積極的に取り組んでいくべきだと考えます。これまで培ってきた僅かながらの経験を活かし、支え続けてくださった地域の方々への感謝を胸に、オープンで公益性の高い組織へと成長してまいりたいと思います。

理事長　本 間 英 典

日本財団の助成による車両整備

平成25年度には、日本財団様の助成により３台の車両を整備しました。各拠点において活躍中です。
ここに改めてお礼とご報告を申し上げます。

▼明和寮（あちぇっとほーむ）
車いす対応車
（普通車）の整備
事業総額　3,080,000円
助成金額　2,460,000円

▲光和寮
バン（軽自動車）の整備
事業総額　684,000円
助成金額　540,000円

▲港ワークキャンパス
バン（普通車）の整備
事業総額　1,700,000円
助成金額　1,360,000円

Vol. 16

理事長あいさつ…… 1
平成25年度　事業報告 …… 2～3
平成26年度　事業計画 …… 4～5
各施設の近況…… 6～12

表紙写真
日本財団の助成による車両整備

社会福祉法人
名古屋ライトハウス

平成25年度　事 業 報 告

Ⅰ　法人本部

障害福祉サービスにおいては、名古屋市から譲り受けた緑風も丸３年となり、軌道に乗り始めている。昨年度開設した５箇所の相談支援事業は、多くの計画作成依頼を受け、たった２年のうちに契約者が千人に迫ろうとしている。その他の事業も、一部には課題があるものの概ね順調に推移し、まずまずの数字を残している。名古屋市の公募による障害者基幹相談支援センターも、精神障害を専門とするＮＰＯ法人との共同運営にて委託を受けることが決まった。

介護保険サービスでは、昨年度の報酬改定による収入減に苦戦する状況の中、冬季に入院者が多発し、昨年に引き続き厳しい運営状況となった。この状況を脱するべく、瀬古マザー園拠点全体として利用促進を図る取り組みを進めている。

法人全体では、夜勤までをこなす介護職員が恒常的に不足し人材確保が課題となった。また、経営職、管理職の育成も課題であり、これに対しては法人として「未来プロジェクト」という幹部育成研修を、年度後半から次年度にかけて実施している。

昨年度の給与制度変更に続き、人材育成を目的とした新たな人事考課システムを１年がかりで構築し、次年度から運用する。職員への期待を明確にし、それを評価しコミュニケーションを深めることで、人材育成の土壌を醸成していきたい。本部事務局は、年度途中に職員が入れ替わりフレッシュな顔ぶれとなった。基本的業務を早急に習得し、求められる役割に少しでも応えていきたい。

Ⅱ　光和寮　拠点

本年度は、定年退職による施設長の交代や課長の異動等があったものの、特に大きな修繕工事や事業拡張等はなく、利用者増による事業活性化と提供サービスの充実に努め、全体としてほぼ順調に推移した。

就労継続Ｂ型は、工賃向上計画に沿って工賃の底上げを行い、障害者優先調達推進法効果も期待しつつ売上活性化に努め、昨年度収支を上回ることができた。就労移行事業では、利用稼働率の維持･安定のため、訓練カリキュラムの再検討、実習生の積極的な受け入れを行った。生活介護事業では生産活動を伴うサービスを試行的に行うなど、クリエイト川名と共に提供サービスの充実に努めた。ガイドネットあいさぽーとでは、月平均300時間の活動実績を達成した。光和障害者相談センターでは引き続き大量のケースに精力的に関わり、事業開始２年間で387名の契約者数に至った。

引き続きそれぞれの事業の課題を整理・改善し、利用者にとって、また地域における包括的な障害者支援体制の中で重要な社会資源となるべく努めていく。

Ⅲ　明和寮　拠点

本拠点の各事業は、想定外の大きな落ち込みもなくおおむね良好に推移した。一方、好調を維持している生活介護事業や放課後等デイサービス、あるいは就労移行支援事業において、その活動スペースの狭さや立地条件が事業進展の妨げとなっており、その解決が新たな課題となっている。

また、これまでの「港区障害者地域生活支援センター」は本年度末で廃止され、平成26年度からは「港区障害者基幹相談支援センター」として、特定非営利活動法人「まちかどサポートセンター」と共同運営（コンソーシアム）していくこととなった。

明和寮拠点の「３ヶ年計画」については、２年目としてサービス供給体制の見直し・人員体制の強化・研修会への積極的参加等、拠点の組織力向上や人材育成に取り組んできた。手応えはあるものの際立った成果には至っておらず、次年度も新しい人事考課制度を活用しつつ引き続き取り組んでいく。施設整備については、正面ゲート・ストックヤードの改修工事、浴槽タイルの張替工事、作業棟（Ｂ棟２階）空調設備の更新等を実施したが、建物・設備は築後30年以上経過し老朽化が目立ってきているため、前述の活動スペースの課題を含め将来像の具体的プラン作りが課題となっている。

貸　借　対　照　表　（法　人　総　合　計）

平成26年3月31日

法人名 ： 社会福祉法人　名古屋ライトハウス

（単位：円）

資産の部	合計	社会福祉事業	就労支援事業	公益事業	基金特別会計	共済等特別会計
【流動資産】	**2,038,412,020**	**748,170,741**	**674,980,307**	**16,134,594**	**313,212,798**	**285,913,580**
現金預金	951,944,514	545,154,919	383,457,913	2,974,940	7,656,565	12,700,177
受取手形	14,978,305	0	14,978,305	0	0	0
売掛金	154,777,713	3,175,808	151,601,905	0	0	0
商品･製品	8,439,946	7,763,096	676,850	0	0	0
原材料	32,206,889	0	32,206,889	0	0	0
有価証券	559,888,226	0	0	0	295,243,344	264,644,882
未収金	288,229,464	184,024,173	91,045,637	13,159,654	0	0
未収補助金	1,185,875	1,029,675	156,200	0	0	0
立替金	834,746	41,318	793,428	0	0	0
前払金	7,044,932	6,981,752	63,180	0	0	0
預け金	18,881,410	0	0	0	10,312,889	8,568,521
【固定資産】	**2,782,918,340**	**1,678,493,704**	**1,099,084,240**	**5,340,396**	**0**	**0**
（基本財産）	2,009,744,329	1,194,780,963	814,963,366	0	0	0
建物	1,659,146,329	1,098,880,963	560,265,366	0	0	0
土地	350,598,000	95,900,000	254,698,000	0	0	0
（その他の固定資産）	773,174,011	483,712,741	284,120,874	5,340,396	0	0
建物	73,278,434	65,251,115	8,027,319	0	0	0
建物付属設備	197,946,182	143,191,177	52,708,350	2,046,655	0	0
構築物	34,921,440	24,970,254	9,910,751	40,435	0	0
機械及び装置	92,282,817	2,487,476	89,795,341	0	0	0
車輌運搬具	21,538,997	10,542,201	10,996,796	0	0	0
器具及び備品	74,617,923	57,880,953	15,837,564	899,406	0	0
敷金	1,485,000	1,485,000	0	0	0	0
保証金	883,200	440,000	143,200	300,000	0	0
ソフトウェア	1,925,294	1,612,259	313,035	0	0	0
その他固定資産	47,510	0	47,510	0	0	0
投資有価証券	20,033,783	0	20,033,783	0	0	0
措置施設繰越特定預金	54,709,550	54,709,550	0	0	0	0
移行時特別積立預金	29,039,565	2,896,569	26,142,996	0	0	0
就労事業運営資金積立預金	5,515,793	0	5,515,793	0	0	0
工賃変動積立預金	10,300,000	0	10,300,000	0	0	0
設備整備等積立預金	8,000,000	0	8,000,000	0	0	0
修繕費積立預金	46,115,000	45,215,000	0	900,000	0	0
備品等購入積立預金	8,265,812	8,265,812	0	0	0	0
退職共済預け金	87,488,921	59,986,585	26,348,436	1,153,900	0	0
功労金預け金	4,778,790	4,778,790	0	0	0	0
資産の部合計	**4,821,330,360**	**2,426,664,445**	**1,774,064,547**	**21,474,990**	**313,212,798**	**285,913,580**

負債の部	合計	社会福祉事業	就労支援事業	公益事業	基金特別会計	共済等特別会計
【流動負債】	**225,733,788**	**110,510,497**	**112,686,161**	**2,537,130**	**0**	**0**
買掛金	67,658,208	5,423,806	62,234,402	0	0	0
未払金	62,519,888	44,902,292	16,672,705	944,891	0	0
預り金	4,346,436	4,322,731	14,400	9,305	0	0
前受金	88,872	80,000	8,872	0	0	0
未払工賃	10,970,782	0	10,970,782	0	0	0
賞与引当金	80,149,602	55,781,668	22,785,000	1,582,934	0	0
徴収不能引当金	0	0	0	0	0	0
【固定負債】	**739,496,711**	**378,949,375**	**226,018,436**	**1,153,900**	**0**	**133,375,000**
設備資金借入金	458,854,000	314,184,000	144,670,000	0	0	0
長期運営資金借入金	55,000,000	0	55,000,000	0	0	0
退職給与引当金	87,488,921	59,986,585	26,348,436	1,153,900	0	0
従業員退職共済引当金	133,375,000	0	0	0	0	133,375,000
功労金引当金	4,778,790	4,778,790	0	0	0	0
負債の部合計	**965,230,499**	**489,459,872**	**338,704,597**	**3,691,030**	**0**	**133,375,000**
純資産の部						
【基本金】	1,035,936,932	667,888,156	368,048,776	0	0	0
【国庫補助金等特別積立金】	890,446,933	624,100,447	266,346,486	0	0	0
【その他の積立金】	161,945,720	111,086,931	49,958,789	900,000	0	0
移行時特別積立金	29,039,565	2,896,569	26,142,996	0	0	0
就労事業運営資金積立金	5,515,793	0	5,515,793	0	0	0
人件費積立金	13,300,000	13,300,000	0	0	0	0
修繕積立金	46,115,000	45,215,000	0	900,000	0	0
備品等購入積立金	8,265,812	8,265,812	0	0	0	0
施設整備等積立金	41,409,550	41,409,550	0	0	0	0
設備整備等積立金	8,000,000	0	8,000,000	0	0	0
工賃変動積立金	10,300,000	0	10,300,000	0	0	0
【次期繰越活動収支差額】	1,767,770,276	534,129,039	751,005,899	16,883,960	313,212,798	152,538,580
（うち当期活動収支差額）	176,812,994	97,320,886	59,319,262	626,663	21,322,271	-1,776,088
純資産の部合計	**3,856,099,861**	**1,937,204,573**	**1,435,359,950**	**17,783,960**	**313,212,798**	**152,538,580**
負債及び純資産の部合計	**4,821,330,360**	**2,426,664,445**	**1,774,064,547**	**21,474,990**	**313,212,798**	**285,913,580**

減価償却累計額	2,984,578,522	1,620,724,517	1,361,686,217	2,167,788	0	0
（うち国庫補助積立金取崩額）	1,223,219,471	885,534,427	337,685,044	0	0	0

Ⅳ　港ワークキャンパス　拠点

本年度の就労事業は、景気に左右され受発注量が安定しないという実態はあったものの、売上は昨年度を上回る実績で着地することができた。金属工場では、取引先の短納期要望に応えるため生産工程の柔軟な組み替えや生産の効率化を図った。また、安定した品質を維持するために新しい機械の導入や機器メンテナンス、作業者の教育等を行い、取引先からの信頼を更に得ることができた。

また、新しい仕事の確保や新卒の利用者を採用するため、地域の団体や養護学校関係、企業等の見学や実習を積極的に受け入れ、関係機関とのパイプをより太くすることができた１年であった。

Ⅴ　緑風　拠点

開設３年目の本年度は、安定的な運営基盤の確立に向けて利用率を上げるよう、広報活動に重きを置いてきた。その結果、開設当初８名だった利用者も３年で37名にまで増加し、８月には利用定員を20名から40名に変更することができた。利用者の増加とともに収支も安定してきている。

また、地域あっての施設という視点を大切にし、情報発信のための外部掲示板の設置、週に１回の歩道清掃、地域商店街のお祭りへの参加、町内会へ向けたＡＥＤ講習会の呼びかけ等をおこなってきた。

利用者支援面では、昼食を毎日２種類のメニューから選んでいただけるよう工夫をして利用者の嗜好性に応えることができた。これにより利用者の満足度も上がり、またアレルギー等の代替食を準備する必要もなくなり一石二鳥となった。

Ⅵ　戸田川グリーンヴィレッジ　拠点

開設３年目、看護師と生活支援員の増員により、新規の通所生活介護開設に備えた。４月には準備室員を任命し、前半に８回の定例会議を開催し準備を進めた。後半の10月には車両を購入し、２階で試行事業として３名の利用者で通所事業を開始した。２月から送迎、３月から入浴も一部開始し、３月末には名古屋市への事業申請も完了し清水基金からの補助金を受け、２階の改修工事を施工できた。

入所では途中１名の退所（肺炎による死亡）があり、施設での看取り・尊厳について議論を始めるきっかけとなった。稼働率平均は入所が96.6％、生活介護が100.8％、短期入所が88.3％で推移し、４月のインフルエンザ蔓延後の感染症予防対策が生きた１年だった。

10月、課長の交代を契機に、改めて全職員に理念浸透の研修を実施し新体制でスタートした。年間を通して女性介護士の採用は極めて厳しい状況が続き、日中の女性介護士パートの拡充で対応した。職員への権限移譲を進めた結果、更なる支援力・判断力・調整力向上が課題となり、対象を絞り込んだ研修や事象の振り返り等を通して職員育成に努めた。

Ⅶ　名古屋盲人情報文化センター

５月に名古屋市へ届け出た、白杖の補装具費申請の誤りは、利用者の皆様をはじめ関係各位の信頼を大きく損ねることとなり、職員一同気持ちを新たにし信頼回復に向けて取り組んだ１年であった。しかし、各自治体に対しての調査、報告、利用者の方への周知などさまざまな対応に追われることになり、当初の年度計画は大幅に停滞を余儀なくされた。

特に、今期の重点目標のトイレの改修などは次年度に持ち越すこととなった。

Ⅷ　瀬古マザー園　拠点

マザー園の経営環境がさらに厳しくなる中、特養において計画した新たな加算への取り組みは、認知症研修修了者と介護福祉士取得者を一定数配置できることによる２つの加算を、次年度取得できる見込みとなるなど一定の成果をみるに至った。また在宅部門においては「居宅・デイ連絡会議」を立ち上げ、新規利用者の獲得へマザー園が一丸となって動ける体制整備を行なった。

一方、感染症に対しては、早い段階から予防対策を講じたものの、年明けから体調不良者が続出し、また、インフルエ

資金収支決算書（法人合計）

（自）平成25年4月1日　　（至）平成26年3月31日

社会福祉法人　名古屋ライトハウス　　（単位：円）

勘定科目			合計	社会福祉事業	就労支援事業	公益事業	基金特別会計	共済等特別会計
就労支援事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	725,638,978	0	725,638,978	0	0	0
		会計単位間繰入金収入	0	0	0	0	0	0
		経理区分間繰入金収入	0	0	0	0	0	0
		就労支援事業収入計	725,638,978	0	725,638,978	0	0	0
	支出	就労支援事業支出	709,438,895	0	709,438,895	0	0	0
		会計単位間繰入金支出	0	0	0	0	0	0
		徴収不能額	116,486	0	116,486	0	0	0
		就労支援事業支出計	709,555,381	0	709,555,381	0	0	0
	就労支援事業活動資金収支差額		16,083,597	0	16,083,597	0	0	0
福祉事業活動による収支	収入	介護保険収入	352,139,141	344,499,779	0	7,639,362	0	0
		自立支援費等収入	1,094,014,943	545,745,109	548,269,834	0	0	0
		補助事業等収入	122,714,744	119,124,745	3,589,999	0	0	0
		利用料収入	368,500	114,000	0	254,500	0	0
		措置費収入	171,600,763	171,600,763		0	0	0
		私的契約利用料収入	93,210	42,810	50,400	0	0	0
		視覚障害者情報提供事業収入	107,700,850	107,700,850		0	0	0
		経常経費補助金収入	253,336,579	229,097,099	5,040,920	19,198,560	0	0
		寄附金収入	13,456,530	11,039,530	2,297,000	0	0	120,000
		雑収入	53,384,382	19,595,899	33,759,123	29,360	0	0
		共済等特別会計収入	12,414,076			0	0	12,414,076
		借入金利息補助金収入	6,021,740	3,946,540	2,075,200	0	0	0
		受取利息配当金収入	9,746,492	515,587	67,096	766	7,268,303	1,894,740
		会計単位間繰入金収入	33,873,772	23,395,346	1,633,080	8,845,346	0	0
		経理区分間繰入金収入	50,500,000	45,500,000	5,000,000	0	0	0
		福祉事業収入計	2,281,365,722	1,621,918,657	601,782,652	35,967,894	7,268,303	14,428,816
	支出	人件費支出	1,443,806,217	1,025,851,127	383,987,556	28,126,534	0	5,841,000
		事務費支出	240,955,426	174,845,996	56,071,550	6,590,186	363,123	3,084,571
		事業費支出	270,253,883	222,593,356	46,400,527	0	0	1,260,000
		借入金利息支出	8,695,355	5,191,111	3,504,244	0	0	0
		会計単位間繰入金支出	33,873,772	10,478,426	23,395,346	0	0	0
		経理区分間繰入金支出	50,500,000	45,500,000	5,000,000	0	0	0
		福祉事業支出計	2,048,084,653	1,484,460,016	518,359,223	34,716,720	363,123	10,185,571
	福祉事業活動資金収支差額		233,281,069	137,458,041	83,423,429	1,251,174	6,905,180	4,243,245
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	10,535,000	7,460,000	3,075,000	0	0	0
		施設整備等寄附金収入	350,000	350,000	0	0	0	0
		固定資産売却収入	30,000		30,000	0	0	0
		施設整備等収入計	10,915,000	7,810,000	3,105,000	0	0	0
	支出	固定資産取得支出	72,451,207	50,067,962	22,383,245	0	0	0
		施設整備等支出計	72,451,207	50,067,962	22,383,245	0	0	0
	施設整備等資金収支差額		−61,536,207	−42,257,962	−19,278,245	0	0	0
財務活動による収支	収入	借入金収入	0		0	0	0	0
		投資有価証券売却収入	0		0	0	0	0
		借入金元金償還補助金収入	25,371,632	12,531,232	12,840,400	0	0	0
		積立預金取崩収入	29,374,406	23,874,406	5,500,000	0	0	0
		その他の収入	6,269,360	4,841,810	1,427,550	0	0	0
		財務収入計	61,015,398	41,247,448	19,767,950	0	0	0
	支出	借入金元金償還金支出	42,110,000	23,312,000	18,798,000	0	0	0
		投資有価証券取得支出	0		0	0	0	0
		その他の支出	1,316,207	344,950	971,257	0	0	0
		積立預金積立支出	60,900,000	60,000,000	0	900,000	0	0
		流動資産評価減等による資金減少額等	−13,883,263	694,495	0	0	−14,417,091	−160,667
		財務支出計	90,442,944	84,351,445	19,769,257	900,000	−14,417,091	−160,667
	財務活動資金収支差額		−29,427,546	−43,103,997	−1,307	−900,000	14,417,091	160,667
当期資金収支差額合計			158,400,913	52,096,082	80,227,474	351,174	21,322,271	4,403,912
前期末支払資金残高			1,701,543,182	641,345,830	471,967,933	14,829,224	291,890,527	281,509,668
当期末支払資金残高			1,859,944,095	693,441,912	552,195,407	15,180,398	313,212,798	285,913,580

事業活動収支決算書（法人合計）

自 平成25年4月1日　　至 平成26年3月31日

社会福祉法人　名古屋ライトハウス　　（単位：円）

勘定科目			合　計	社会福祉事業	就労支援事業	公益事業	基金特別会計	共済等特別会計
就労支援事業活動収支の部	収入	就労支援事業収入	725,638,978	0	725,638,978	0	0	0
		引当金戻入	1,396,875	0	1,396,875	0	0	0
		就労支援事業活動収入計	727,035,853	0	727,035,853	0	0	0
	支出	就労支援事業支出	728,575,409	0	728,575,409	0	0	0
		徴収不能額	116,486	0	116,486	0	0	0
		就労支援事業活動支出計	728,691,895	0	728,691,895	0	0	0
	就労支援事業活動収支差額		−1,656,042	0	−1,656,042	0	0	0
福祉事業活動収支の部	収入	介護保険収入	352,139,141	344,499,779	0	7,639,362	0	0
		自立支援費収入	1,094,014,943	545,745,109	548,269,834	0	0	0
		補助事業等収入	122,738,744	119,124,745	3,589,999	24,000	0	0
		利用料収入	344,500	114,000	0	230,500	0	0
		措置費収入	171,600,763	171,600,763		0	0	0
		私的契約利用料収入	93,210	42,810	50,400	0	0	0
		視覚障害者情報提供収入	107,700,850	107,700,850		0	0	0
		経常経費補助金収入	253,336,579	229,097,099	5,040,920	19,198,560	0	0
		寄附金収入	13,456,530	11,039,530	2,297,000	0	0	120,000
		雑収入	53,384,382	19,595,899	33,759,123	29,360	0	0
		借入金元金償還補助金収入	25,371,632	12,531,232	12,840,400	0	0	0
		共済等特別会計収入	12,414,076			0	0	12,414,076
		引当金戻入	209,645,018	57,566,235	23,506,950	1,376,833	0	127,195,000
		国庫補助金積立取崩額	62,992,211	47,666,301	15,325,910	0	0	0
		福祉事業活動収入計	2,479,232,579	1,666,324,352	644,680,536	28,498,615	0	139,729,076
	支出	人件費支出	1,443,806,217	1,025,851,127	383,987,556	28,126,534	0	5,841,000
		事務費支出	240,955,426	174,845,996	56,071,550	6,590,186	363,123	3,084,571
		事業費支出	270,253,883	222,593,356	46,400,527	0	0	1,260,000
		減価償却費	150,767,652	101,420,781	48,928,461	418,410	0	0
		徴収不能額	694,495	694,495	0	0	0	0
		引当金繰入	213,849,602	56,106,668	22,785,000	1,582,934	0	133,375,000
		福祉事業活動支出計	2,320,327,275	1,581,512,423	558,173,094	36,718,064	363,123	143,560,571
	福祉事業活動収支差額		158,905,304	84,811,929	86,507,442	−8,219,449	−363,123	−3,831,495
事業活動外収支の部	収入	借入金利息補助金収入	6,021,740	3,946,540	2,075,200	0	0	0
		受取利息配当金収入	9,746,492	515,587	67,096	766	7,268,303	1,894,740
		会計単位間繰入金収入	33,873,772	23,395,346	1,633,080	8,845,346	0	0
		経理区分間繰入金収入	50,500,000	45,500,000	5,000,000	0	0	0
		有価証券売却益	14,577,758	0	0	0	14,417,091	160,667
		事業活動外収入計	114,719,762	73,357,473	8,775,376	8,846,112	21,685,394	2,055,407
	支出	借入金利息支出	8,695,355	5,191,111	3,504,244	0	0	0
		会計単位間繰入金支出	33,873,772	10,478,426	23,395,346	0	0	0
		経理区分間繰入金支出	50,500,000	45,500,000	5,000,000	0	0	0
		有価証券売却損	0	0	0	0	0	0
		資産評価損	0	0	0	0	0	0
		雑損失	991,207	19,950	971,257	0	0	0
		事業活動外支出計	94,060,334	61,189,487	32,870,847	0	0	0
	事業活動外収支差額		20,659,428	12,167,986	−24,095,471	8,846,112	21,685,394	2,055,407
	経常収支差額		177,908,690	96,979,915	60,755,929	626,663	21,322,271	−1,776,088
特別収支の部	収入	施設整備等補助金収入	10,535,000	7,460,000	3,075,000	0	0	0
		施設整備等寄附金収入	350,000	350,000	0	0	0	0
		国庫補助金積立取崩額	1	1	0	0	0	0
		固定資産売却収入	29,999	0	29,999	0	0	0
		特別収入	10,915,000	7,810,001	3,104,999	0	0	0
	支出	国庫特別積立金積立額	10,535,000	7,460,000	3,075,000	0	0	0
		固定資産売却損・処分損	1,475,696	9,030	1,466,666	0	0	0
		特別支出	12,010,696	7,469,030	4,541,666	0	0	0
	特別収支差額		−1,095,696	340,971	−1,436,667	0	0	0
当期活動収支差額			176,812,994	97,320,886	59,319,262	626,663	21,322,271	−1,776,088
繰越活動収支差額の部	前期繰越活動収支差額		1,622,482,876	472,933,747	686,186,637	17,157,297	291,890,527	154,314,668
	当期末繰越活動収支差額		1,799,295,870	570,254,633	745,505,899	17,783,960	313,212,798	152,538,580
	その他の積立金取崩額		29,374,406	23,874,406	5,500,000	0	0	0
	その他の積立金積立額		60,900,000	60,000,000	0	900,000	0	0
	次期繰越活動収支差額		1,767,770,276	534,129,039	751,005,899	16,883,960	313,212,798	152,538,580

ンザが利用者・職員に流行するなど一時緊急事態を招いてしまった。次年度へ向けて従来の予防対策を抜本的に見直し、新たな対策を模索していく。

医療関係の連携においては、４月より特養を中心に訪問歯科医の定期往診を開始し、歯科医療において迅速な対応がとれるようになった。併せて歯科衛生士の訪問による定期的な口腔ケアの実施により、誤嚥性肺炎の防止や、利用者の状態に合わせた食事提供につなげることができた。

長年の懸案事項であった協力病院については、12月に近隣の大隈病院と協力医療機関協定書を締結でき、連携強化を図ることができた。

人材育成面については、本年度も職場研修の定期開催や外部研修への参加に積極的に取り組んだ。引き続き日中おむつゼロへの取り組みにより､職員の介護力の底上げを図りつつ、認知症及び視覚障害者支援に関する専門研修にも力を入れていく。

懸案となってきた給湯管の更新工事については、本年度前期で本体部分が終了し、残りのボイラー室の配管についても年度末までに更新工事は全て完了した。

環境整備プロジェクトについては、マザー園周囲の樹木の剪定や食堂前菜園の整備など園内の環境整備を、年間計画に沿って着実に実施することができた。

※各事業所の事業報告はホームページからご覧頂けます
http://www.nagoya-lighthouse.jp/disclosure.html
名古屋ライトハウス「情報公開」

平成26年度　事 業 計 画

Ⅰ．法人本部

介護保険サービス、障害福祉サービスいずれの分野においても、ＮＰＯ法人や営利法人が活発に参入し、社会福祉法人のあり方、アイデンティティが強く問われる時代となっている。

年々深刻となる施設、設備の老朽化への対応や、大規模災害も想定した防災の取り組みなど､取り組むべき課題は多い。本年度から、ＮＰＯ法人とのコンソーシアム（共同運営）により、港区障害者基幹相談支援センターの委託を受ける。また、戸田川グリーンヴィレッジでは、新たに生活介護通所部門を開設、今まで以上に地域のニーズに応えていく。

こうした状況を踏まえ、法人としては、事業計画や予算の推進・管理、情報収集や分析、それに基づく情報や方針の発信など、本部機能の強化を図り、各事業の合理的かつ効果的活動を下支えし、安定的な経営に導く。

Ⅱ．光和寮　拠点

３か年計画の最終年にあたり、引き続き『健全な経営と共生・共働する光和寮』をスローガンに、以下の観点から光和寮拠点全体の活性化を図る。

①福祉の専門性を活かし地域社会に貢献する光和寮拠点を目指す

地域の行政・社協・諸団体の福祉ネットワークへの関わりや地域行事への参画を積極的に推し進め、地域との結びつきを強固にすると共に、地域の福祉ニーズを敏感にキャッチしこれに応える福祉サービスを展開していく。光和寮拠点の長い歴史や成り立ちと、社会福祉法人としての公益性を鑑み視覚障害者支援のサービスを具体的に創造していく。

②各事業の利用稼働率の安定化による収支改善を進める

各事業の利用稼働率80％以上を目指し、地域の福祉ニーズに広く応えていくと共に事業収支の安定を図る。地域ネットワークの活用と情報発信に努める。

③内部研修による職員の資質向上

経験年数の浅い職員が増えたことも踏まえ､内部研修･勉強会を年間計画に基づき実施し、一人ひとりの職員が必要な知識･技術･情報を取得･共有し質の高い福祉サービスを提供する。

Ⅲ．明和寮　拠点

３か年計画最終年度として、引き続き拠点の体制整備、建物および設備の修復、高い専門性およびマネジメントができる人材の育成に注力していく。

同時に次期３か年計画の準備期間として、今後の事業展開および建物・設備の具体的再整備計画をプロジェクト化し検討する。

Ⅳ．港ワークキャンパス　拠点

３年計画として進めてきた経営改善もいよいよ最終年となる。この２年間は収支バランスを整えるため、主に支出の削減（材料費の低減、適正在庫管理など）を中心とした策を実施し、良好な結果を出すことができた。

本年度は、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動には十分注意しつつ、売上を伸ばし利益率を確保するため、製缶機械の改造や新規機械の導入、生産効率化を図るための人事体制の再編等を行い、利用者工賃アップに繋げていく。

Ⅴ．緑風　拠点

本年度で開設４年目を迎える。最近は知的障害や精神障害の方の利用が増えており、障害種別の割合は、身体39％、知的45％、精神16％と、その差が詰まってきている。

一拠点として三障害をどこまでカバーできるかが課題だが、障害種別によるサービス提供の偏りがないように努め、役割分担を明確にしてそれぞれに丁寧な支援ができるよう心がける。

また、きめ細やかなサービス提供を実現するための会議体制を充実させ、職員の質の向上と、臨機応変な就労支援“あなたらしい働き方”を実現させる。

本年度は、事業の活性化と就労サービスの拡充を目的に、敷地北側の土地（名古屋市の無償貸付）を活用して、新しい「就労の場」を創出する計画がある。これについては、土地の使用制限が厳しいため名古屋市住宅都市局との調整が必要となっているが､これからの福祉施設の大きな課題である｢地域とのつながり」を念頭に、今後の緑風の大きな柱となる新規事業を計画していく。

Ⅵ．戸田川グリーンヴィレッジ　拠点

施設開設後３年が経過し、４年目に入る。本年は開設当初より地域ニーズが極めて高かった通所生活介護「木の香」の開設と、既存事業のより安定的な運営を目指し進めていく。障害者を取り巻く障害者基本法改正、障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の成立といった国内法の整備を受け、２月には障害者権利条約の批准もされた。３法とは別の流れで成立した虐待防止と養護者の支援に関する法律も意識しながら職員の人権意識と支援力を更に高めていき、お互い信頼し、協力し合える組織を作っていく。利用者の支援場面で職員個々に抱えている悩みや葛藤を共有し合い、検討し合える研修や職員間の関わり場面を増やしていく。身体障害者施設職員研究大会2014の研究発表の準備を相談員と介護部門で着実に進める。

今後の５年、10年を見据えた福祉施設の在り方、中長期計画を施設経営委員会等で検討していくとともに第３者評価を実施する。

Ⅶ．名古屋盲人情報文化センター

昨年度は、当センターが補装具として取り扱っている白杖について誤った見積書を作成していたことがわかり､利用者、行政等関係機関に大変ご迷惑をおかけすることとなった。本年度は、この再発防止を最大の課題とし、法令順守を徹底し以下の事業を進めていきたい。

３か年計画の最終年である３年目として、事業の活性化、地域社会への貢献、職員教育、施設整備等について一層取り組みを進め完成させていく年度とする。施設整備に関しては、懸案となっていたトイレの改修を実施する。

Ⅷ. 瀬古マザー園　拠点

現在、マザー園を取り巻く経営環境は極めて厳しく、経営基盤の安定化のための抜本的な対策が急務となっている。

そのため、各事業における加算取得の取り組みや、新規利用者の獲得に向けた対策など、収入増加の取り組みを推進するとともに、来年度報酬改定の動向を見極めつつ、国の対策に即応した体制づくり及びサービスの再構築を目指す。

とりわけ在宅部門においては、居宅介護支援事業所、瀬古デイサービス、矢田デイサービスが一体となって動けるよう「居宅・デイサービス連絡会議」を立ち上げたところであり、本年度においても、月１回の定期開催で意思疎通を図りながら、施設部門を含めたマザー園全体の収入増加を目指していく。

人材育成については、科学的介護の実践に向けて全国老施協主催の介護力向上講習会への参加を予定しており、日中おむつゼロを目指した先進的な介護に取り組むことにより職員の介護力の底上げや意識改革を図るなど、今後も職員の育成に力を入れていく。

施設及び環境整備では、平成会館２階空調設備の更新工事を予定している。また四季折々に合わせた植栽など、園内の環境整備に引き続き取り組んでいく。

新会計基準への移行

当法人では、平成26年度より新会計基準に移行します。社会福祉法人の公益性と透明性が益々求められ、決算等の公開も義務化されました。これまで以上に正確な経理と情報公開に努めてまいります。

法人合計　　資金収支予算書(当初予算)

(自)平成26年 4月 1日(至)平成27年 3月31日

(単位:円)

勘定科目			予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	367,485,000	364,377,000	3,108,000	
		老人福祉事業収入	166,380,000	171,520,000	△ 5,140,000	
		就労支援事業収入	724,751,000	697,142,000	27,609,000	
		障害福祉サービス等事業収入	1,444,887,000	1,394,076,300	50,810,700	
		視覚障害者情報提供事業収入	148,341,000	166,980,000	△ 18,639,000	
		借入金利息補助金収入	5,675,000	6,177,000	△ 502,000	
		経常経費寄附金収入	3,822,000	11,790,000	△ 7,968,000	
		受取利息配当金収入	7,598,000	12,536,000	△ 4,938,000	
		その他の収入	30,232,000	64,935,000	△ 34,703,000	
		事業活動収入計(1)	2,899,171,000	2,889,533,300	9,637,700	
	支出	人件費支出	1,505,125,000	1,451,974,000	53,151,000	
		事業費支出	332,782,000	272,934,000	59,848,000	
		事務費支出	190,787,000	242,896,000	△ 52,109,000	
		就労支援事業支出	718,420,000	696,550,000	21,870,000	
		支払利息支出	7,667,000	8,485,000	△ 818,000	
		その他の支出	1,300,000	0	1,300,000	
		事業活動支出計(2)	2,756,081,000	2,672,839,000	83,242,000	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		143,090,000	216,694,300	△ 73,604,300	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	21,810,000	31,552,000	△ 9,742,000	
		施設整備等寄附金収入	23,000	0	23,000	
		固定資産売却収入	0	30,000	△ 30,000	
		施設整備等収入計(4)	21,833,000	31,582,000	△ 9,749,000	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	38,126,000	41,970,000	△ 3,844,000	
		固定資産取得支出	26,978,000	77,175,000	△ 50,197,000	
		施設整備等支出計(5)	65,104,000	119,145,000	△ 54,041,000	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 43,271,000	△ 87,563,000	44,292,000	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	13,900,000	29,500,000	△ 15,600,000	
		その他の収入	0	3,976,000	△ 3,976,000	
		その他の活動収入計(7)	13,900,000	33,476,000	△ 19,576,000	
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	5,000,000	0	5,000,000	
		積立資産支出	40,000,000	41,215,000	△ 1,215,000	
		流動資産評価減資産減少額	0	695,000	△ 695,000	
		その他の活動支出計(8)	45,000,000	41,910,000	3,090,000	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 31,100,000	△ 8,434,000	△ 22,666,000	
予備費支出(10)			5,535,000	0	5,535,000	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			63,184,000	120,697,300	△ 57,513,300	

前期末支払資金残高(12)	1,822,240,482	1,701,543,182	120,697,300
当期末支払資金残高(11)+(12)	1,885,424,482	1,822,240,482	63,184,000

光　和　寮

昭和区の福祉まつりにて
光和寮の地域との取り組みが紹介されました

６月15日の日曜日に昭和区役所の講堂で昭和区の福祉まつりのシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、昭和区にある福祉関係、医療関係、ボランティア団体等で構成されていまして、今年は「わが町のいちおし」というテーマで行われました。昭和区内での地域貢献等の自慢話をするのですが、広路学区のシンポジストが地域貢献の話の中で、光和寮と一緒に毎年夏は「夏まつり」を、秋には「地域交流フェス」を、新春には「鍋パーティ」に参加していることを挙げてくださいました。その中で「光和寮の職員の方の障がい者への配慮の仕方などが非常に行き届いており勉強になった」「光和寮の方たちも広路学区主催の盆おどり、わいわいフェスティバルに多数遊びに来てくださっており、そうやって築いてきた信頼関係が自慢話のひとつである」と、おっしゃっていただけました。

その話を聞き、毎年、毎年、地域との交流を地味であっても少しづつでも繰り返しやっていくことが大切だと思う半面、これからも地域の方々の期待を裏切らぬようにしないかんと、プレッシャーがかかった瞬間でもありました。

第32回 昭和区の福祉まつり シンポジウム

わが町のいちおし活動

日　時　平成２６年６月１５日（日）　13:00～16:00
会　場　昭和区役所講堂

主　催　昭和区の福祉まつり実行委員会
共　催　名古屋市昭和区役所
　　社会福祉法人名古屋市昭和区社会福祉協議会
後　援　名古屋市民生委員児童委員連盟昭和区支部
　　社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

明　和　寮

西部親和会日帰り旅行
「知多半島　ぐるっと一周」

６月７日、天気も崩れることなく総勢200名で知多一周、施設も事業も超えて交流する機会となりました。今回は「移動時間を少なく、それぞれ楽しんで」をコンセプトに、えびせんべいの里からスタートし、ビアシティ南知多でバイキング昼食、めんたいパーク、セントレアというコースを企画。多くの方に楽しんでもらうために、リフトバスの手配や下見、しおりづくりは正直大変で直前まで不安でした。しかし当日は西部施設の団結力と福祉プロの腕が光り、トラブルなく進めることができました。スカイデッキでうんちくを語る姿、バイキングでこだわって盛り付ける姿、試食に燃える姿。帰りのバスではそれぞれ話に花を咲かせていました。これからもこの大イベントにより多くの方が楽しめる視点や仕掛けを取り入れていきたいと思います。

行ってきました！木下大サーカス！

事業がスタートして7年目となる生活介護「ぷちとまと」。普段はカラオケやゲームでなど室内で盛り上がっていますが、年３回は外出レクを企画してワイワイ楽しくやっています。

さて、今年度の外出レクの第一弾は、木下大サーカス！４月に４グループに分かれて出かけてきました。バスに乗り込みいざ出発、ワクワクドキドキしながら大きな赤いテントに入った途端、不思議な世界に入り込んでしまいました。

滑稽なピエロ、迫力のホワイトライオン、バイクの爆音、息をのむ空中ブランコなど、すばらしい演技に拍手喝采。音と光のパフォーマンスに大興奮でした。

「初めてサーカスを見たよ」と満足げな顔の利用者さん達。

雨に祟られたり、不慣れな場所ゆえトイレや座席にちょっと戸惑ったりもありましたが、とても楽しいひと時を過ごすことができました。

港ワークキャンパス

かんせい工房一周年を迎えて

かんせい工房の「かんせい」には、所在する地「寛政（かんせい）町」と、みんなの豊かな「感性」が磨かれていくことで、人生幸福の縮図が「完成」される、という意味合いがあります。

皆様のお陰で１周年を迎えることができました。今後とも「かんせい工房」を宜しくお願いいたします。

施設長　野々下哲也

かんせい工房一周年！

早いもので、かんせい工房もオープンから丸一年が経過いたしました。

オープン当初は、新しく広い作業場や広い食堂にポツリポツリと利用者や職員が静かに一日を過ごしていましたが、一年たった今では、利用者さんも増えて狭い作業場に狭い食堂で、時に新人ボートレーサーの方たちとのイベントがあったりととても賑やかに一日を過ごしています。

さて、冒頭にもあるとおり、かんせい工房では平成26年４月１日をもちまして丸一年を迎え、５月24日にその記念とみなさんへの感謝を込めたパーティーをささやかにみんなで実施いたしました。

盛大な、とは行きませんが、おのおの思い思いに楽しめるように、又、利用者全員の工賃Upを祈念しＢＢＱ＆カラオケ大会を行い厨房さんのおいしい食事と共に楽しみました。特にカラオケ大会は大盛り上がりで、歌って踊って食べて飲んでとこれで又一段と利用者､職員の結束も深まりました。今後も、５周年、10周年と利用者、職員一丸となって着実に積み重ねて行き楽しく盛大な周年を迎えられるよう頑張ってまいります。

一周年、数々のライトハウススタッフの方、又たくさんの企業の方々に支えていただきましたこと、改めまして御礼申し上げると共に、今後とも、かんせい工房が真の「完成」を迎えられますよう、よろしくお願いいたします。

緑　風

清掃用品の販売を始めました！

緑風では、清掃用品の老舗メーカー ハツ矢工業株式会社様（名古屋市中村区）のご協力のもと、一部商品の製造委託を受け、長年にわたりパートナーとして活動しています。

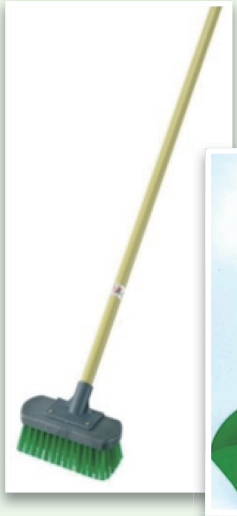
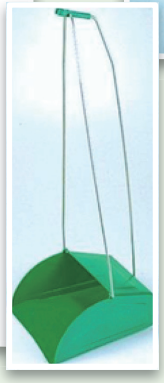
そこで！　ハツ矢工業様にもこころよいご承諾をいただきましたので、今年度から清掃用品の販売を開始することになりました。

○ 障害者優先調達推進法

これから自治体や独立行政法人などの外郭団体で取り組みが盛んになっていくと思われる「障害者優先調達推進法」を追い風として、営業活動にも注力し、就労売上のアップを図ります。

“くまで”など多くの清掃用品を緑風で組立て加工しています！

★ 取扱商品一例 ★

戸田川グリーンヴィレッジ

○ 通所生活介護 『木の香』

平成26年４月１日、戸田川グリーンヴィレッジに新しい事業が誕生しました。通所生活介護『木の香』

現在10名の利用者さんにご利用頂いています。

『木の香』では、音楽療法や組紐などの活動の他、スヌーズレンルームを用意し、利用者さんの心の安定にも力を入れています。スヌーズレンとは、光･音･におい・振動・触覚の素材等五感を優しく刺激するものを効果的に配置し、利用者さんご自身で、好きな感覚を楽しみ、リラックスし、自由な形で感覚を磨くことができます。主に昼食後の休息の時間や個別支援活動として行っています。

現在、開所の為にご尽力いただいた清水基金へ感謝の気持ちを込めて利用者さん手作りの物を製作中です。

『木の香』は戸田川グリーンヴィレッジの職員から募集して、戸田川グリーンヴィレッジの建物が木のぬくもりであふれている・近くに戸田川緑地公園があり木や花、土の香りが風に運ばれて四季折々を感じられるということもあり命名しました。

木は見ているだけで心が落ち着いたり、触れるとパワーがわいてきたりと昔から木には不思議な力があると言われています。『木の香』も利用者さんの居心地の良い、落ち着ける場を目指していきたいと考えております。

まだ、生まれたばかりのひよこ？いえいえ『木の香』なので若葉ですが、これから大きく成長し、いずれは大樹に生長できるよう職員一同頑張ってまいります。

戸田川緑地にて

スヌーズレン

○「エコ活動」やっています

「やってもらうばかりでなく、自分たちも何か社会に貢献できる活動がしたい。簡単な作業がしたい」という利用者の声を形にしたのが「エコ活動」です。空き缶のプルタブを外す作業、ベルマーク・切手を切り取って集める作業などを、少人数ではありますが、月に２回程度取り組んでいます。集められたものは、寄付金として換金され、海外のワクチンの費用、筆記用具や自転車などにして寄付活動をしている団体に届けています。法人の各施設に切手の付いた封筒を集めていただいており、ご協力に感謝しています。

名古屋盲人情報文化センター

「ザ・ヨウグテン」を開催しました

去る５月17日（土）と18日（日）、名古屋盲人情報文化センターを会場に第11回用具展「ザ・ヨウグテン」を開催しました。2002年以来の２日間開催に400名が来場され、隣接の駐車場にテントを張り焼きそば・たい焼きなどの模擬店も用意しました。

出展業者は16社。常に人だかりができていたコーナーは、音声操作のできるテレビ･蒸気レス炊飯器･エアコン、そしてガラケーのラクラクホンにらくらくスマホです。「蒸気の出ない炊飯器なんて、直感的に炊き状態が分かりづらく視覚障害者に歓迎されるのか」と違った意味での興味を抱きましたが､「音声で確実に操作確認して最後の炊飯スイッチが押せる安心感は大きい」との感想をもらい、晴眼者目線の思い込みを反省しました。

そして、操作内容と入力した点字を読み上げる機能が付いた最新の点字ディスプレイにも多くの関心の手と目が集中し、実機を操作しながら担当者を質問攻めにする光景も２日間を通して見られました。このディスプレイ見たさに京都から来場され「これで購入する決意が固まった！」と勇んで帰られた方も。こんな場面に出くわすと、用具展開催の意義を痛感します。そして「音声操作のできるエアコンなんて知らなかった。先日買っちゃったあ～､残念！」という声を聞けば、情報提供施設としての力不足に肩を落とすのです。

体験整理券が２日間とも完配した「画像聴覚化装置」は、ヘッドフォンを付け、音の高低差と音の出る位置で「物の形」を表現する試みで、この海の物とも山の物ともつかない未知の装置をお目当てに浜松から来場された親子もいました。

模擬店

特別企画は「職員が語る愛用品紹介コーナー」。視覚障害を持つ職員６人が各々、日頃から愛用するキッチンはかり・印鑑ホルダー・小型点字プリンタなどを、まるでスーパーの実演販売のようにその使い勝手を紹介しました。

次回の用具展が開催される頃には廉価で、触って楽しいものが手軽にできる３Ｄプリンターが登場して欲しいものです。

音声操作テレビ

画像聴覚化装置

瀬古マザー園

●開設25周年行事

瀬古マザー園は平成元年５月12日に開設し、今年で25周年を迎えました。開設記念日である５月12日には園内の各事業所で記念行事を催しましたので、その様子を一部ご紹介します。

まずは特養、園長の挨拶、乾杯に始まり、マザー園の歩みを紹介。その後職員による寸劇がスタート。食堂の中央、静かに対峙する介護士と相談員。二人を見つめるご利用者の皆様。「マザー園の平和は相談員が守る！」と一閃、二つの刃（京都のお土産）がぶつかると歓声があがり……。少々主旨がずれた感は否めませんが、ご利用者にも記念日を楽しんでいただくことができました。

盲養護では、名古屋ライトハウスにゆかりのあるご利用者数名にマザー園開設時の思い出やエピソードを紹介していただきました。最後に“ライトハウスの歌”を歌うと、「懐かしい、昔は朝礼のときに歌ったよ」と一緒に口ずさんだり、働いていた頃を懐かしむ方もみえました。それぞれのご利用者も入所当時に思いを馳せていらっしゃるようでした。

デイサービスセンターでは、ご利用者に元気を届けよう、マザー園デイサービスがご利用者にとって特別な存在になれるようにと、職員一同心を込めて“世界に一つだけの花”をご利用者に届けました。

まだまだ25周年、今後も30周年そして50周年と末永くご利用者、また地域の皆様のお役に立てるよう職員一同努めてまいりますので、今まで以上にご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

●お知らせ

「夏の植え替え」

６月上旬、恒例となりつつある園庭の植え替えを実施しました。夏にはまた新たな花や野菜にふれていただくことができそうです。

「給湯管改修工事完了」

ここ数年老朽化が進んだ給湯管で度々不具合が生じていましたが、平成25年度一年間をかけ全館および機械室の改修を行い、無事完了しましたのでここにご報告します。